

下北郡佐井村牛滝

昭和九年坂井家漁日記

坂井清一

下北郡佐井村牛滝 坂井家漁日記

坂井清一

昭和九年一月一日 西風 寒 吹雪

いよいよ昭和八年も過ぎさりここに新玉をむかへて昭和九年と成りぬ

何と月日の過ぎるのは早いものだろう

今年こそとは思ひ居れども今まではやっぱりだめだった

今年こそはと今よりまた考いられる

今晚は青年男女合同発表会有りたり

女は一人も発表せず男も小さき人達はでず残念なり

青年男女合同発表会有り

年賀状三十五枚来たれり

注。合同発表会 青年団・処女会合同意見発表会

一月二日 西風 寒 吹雪

今日もいよいよ寒い 風勢は今だおとろいず盛んに吹きすぎる

雪は風に飛んで吹雪となれり

午後網をちぎ合わせ居れば機関士来たりて話し

こめり

今日は寒さの為に何処にも行けず

明日明後日には風有ることと思ふ

一月三日 曇 暖 雪

今朝の雪は家の前は二尺も積もった 今日船の雪を取るやら浜の雪を取るやら午前中はいそがわしい

午後すらせ（知らせ）のはたを造れり

注。すらせ 網につける標識のこと

一月四日 朝雪 午後晴 寒

今朝雪晴てより発動機に引かれて網へ行く

二つの網にて二百五十本より取らぬ

〇千 〇千 〇千 五百ばかり取る

〓 たちは九百ばかりとった

今日は大変に波が有つておかなかつた

今晚年賀状二十五枚ばかり来る

送り

幸丸

生鱈 八十本

カレ 二二三

注。送りとあるのは漁獲物のうち値のするものを青森の魚問屋に発動機船で送りつけたもの

〓 貫目の略で一貫は三・七五キロ

一月五日 大雪 西南風

今日は別家の長太郎が一人で行ってむかいを受けて大変な騒ぎをおこした

幸福丸が来たが幸丸が来ぬ 幸福丸より先に出たそうだが今晚十時になっても来ぬ 明朝は来るだろう

注。幸福丸、幸丸とも牛滝の機帆船で青森への雑貨、食料積みを本業としていた

一月六日 晴

今日は鮫網を七つちけて来た

後健太郎達を手伝いに行つて来た

今日幸丸で桐丸太四拾七本積ませた

注。鮫網 ネズミザメ(地方名カドザメ、モウカザメ)漁用の流し網

一月七日 晴

今日は網の具合をなほして来る

今日の漁

夕ラ 六拾本

小魚 若干

一月八日 曇 西風

一昨日前の積りたる雪をふむ為に青年団にて雪踏みをせり

福浦より幸丸にて帰宅せり

送り

幸丸

一生鱈 三拾四本

六十斤函入 一ヶ

注。雪踏み 牛滝より福浦までの道路の雪を踏み固めて郵便配  
達夫等の通行を助けた

一月九日 曇 西南風

今日は朝発動機が二そうとも来た  
後薪わりをすた

晩方発動機二そうとも陸上げをすた

一月十日 西風 寒 吹雪

今日は何にもせず一日遊ぶ

蛸田杉浦小六さんの処に書を送る

注。書とは手紙のこと

一月十一日 西風 寒

今日は鮫網見が三そう出て二本上がった

今日は網ほぐしをすた

加藤鮫二本上り

注。加藤鮫とはネズミザメのこと

一月十二日 西風 寒

今日は凧すと思いきや風ますますふきすのり波もだんだんに上りて発動機を二回も上げたり  
今晚中西さんの処にて遊ぶ

一月十三日 西風

今日は前日の通り網ほぐしをすた  
今晚は健太郎の家で遊ぶ

一月十四日 西風 暖

今日は寒が入ってから九日目で見そちき（味噌搗き）をすた  
今晚九時頃御詣をすた

一月十五日 曇 雨

今日は佐井の人に野平の山を見てもらった  
本数は三百四拾八本で三百石余あるかと思つて  
居る

一月十六日 晴 凧

今日はたらはさっぱりのもつて居らぬが鮫が大変に上がったが家の網にはさっぱりあたらぬ  
今晚いびす（恵比須）祝に呼ばれて行く

注。恵比寿祝は大漁祝の別称 ここではネズミ鮫（かどぎめ）の

大漁祝

今日の漁

タラ 七拾一本

小魚 一折

町売

一・生蛸 七ヶ四百

一円四十八錢

浜野市松

送り

一・生鱈六十六本

一・カレ八函一ヶ

一・幸丸積

注。折とは生魚を入れる平函で四寸高、五寸高などあり、一個、

一枚、一折などと呼んだ

一月十七日 雪

今日は母は海苔とりにいった

僕はあみほぐしにいそがわしい

一月十八日 曇後晴 北風

今日は沖へ出でずに網ほどきをすた

今晚幸福丸が来た

一月十九日 晴

今日は鮫網を見廻って来た

其の後網ほどきをすて後海苔取りに行く

一月二十日 細雪

今日は一日家に居る

幸丸来る

白米一俵

一月二十一日 曇 雪 北風

今日も前日通り網を造る

今日母が海苔うちをする

今晚は訓練だ

注。訓練 水産補習学校にて軍事教練を受けたものである

一月二十二日 晴

今日は家では加藤鮫一本取りたり

倉ではまぐろ一本上がった 僕等知ってより今

まで当地ではまぐろの上があったのは今が初めてだ

まぐろは三十八ヶ掛かったそうだ

今日の漁

加藤鮫一本

送り 幸丸

一・加藤 一本

一・タラ子 タル(樽) 入一ヶ

一月二十三日 曇

今日は網上げをすた

今晚森林部分林組合の総会が有った



今日の漁

夕ラ 五拾六本

カレ 七八メ

補植時日

四月壹日参百本

切払時日

七月二十日

一月二十四日 雪 山せ

今日は山行きをすた

今晚学校に行つて来た

送り 幸丸

一・生夕ラ 四十本

一・小魚 八十斤折一枚

一月二十五日 晴

今日も山へ行つて来た

天氣が良かったが風が吹く度木の上の雪がおつ  
るのには閉口すた

一月二十六日 雪

今日も山行きをせり

今晚学校に行きて先日調べたる杉丸太の石数を  
調べたるに四百七拾余石有りたり

本数は三百四十本也

一月二十七日 晴 寒

今日は鮫網を上げにいつて来た

今日は二本取りが二軒あつた

今晚は夜学に行く

一月二十八日 晴

今日は山へ行つたが今日は最終日で有つたのでとても樂をすた

今晚は訓練だつた

一月二十九日 午前晴 午後雪 西南風

今日午前中風ぎたのでのり取りをすた

今晚はおこもりだので御詣をすた

注。牛滝神明宮に伝承されている行事であり現在も継承されて

いる 祈願しながら夜食し朝まで社殿に籠る 旧曆一月十

五日と十二月十五日に行なわれていたが現在は太陽曆とし

ている 全世帯より参加する

一月三十日 雪 西風

今日は網のはたちき（旗付）をすた

今晚夜学に行く

一月三十一日 晴

今日は佐井出張せり

途中雪が深くて閉口せり

二月一日 曇

今日は途中も無事帰宅せり

二月二日 曇

今日は鮫網ちけをせり

二月三日 曇 下風 寒

今日はのりとりに行つたがさっぱり

風が出てだめだった

今晚夜学に行く

二月四日 吹雪 寒

今日は工場にて一日一ぱい網造りをせり

今晚は訓練にて油をすぼらる

注。工場 網仕事をすする小屋のこと

二月七日 吹雪 西風

今日は鮫網を見て加藤一本取りたり

青森より幸丸来たりて鮫を積み出て出港せり

余は青森出張せり

当地二時出港 青森入港は午後六時五拾二分着  
きたり

二月八日 吹雪 西南風

今日は午前〇網店にて網をそろわせて後長内に行きて清算せり

今晚は常設館にて活動を見る

注。常設館 当時新町駅前にあつた日活常設館のことで映画館

二月九日 吹雪 西南風

今朝午前五時に起こされて帰宅をすべく出発せり途中雪ちもりて居れり

船は午前六時出港せり

途中風波荒れて閉口せり

午前十一時無事帰宅幸丸は上げたり

今晚は夜学に行く

二月十一日 曇 寒

今日は凧ぎて沖へ出たがさっぱり漁がない

今日は家では餅ちきをせり

今晚学校で紀元節をせり

二月十五日 晴 寒

今日信用組合の利息調査にて余等先立にて帳面調査に一日暮せり 終り時は日暮なり

弟来たりて母の急病をちげり 余急ぎ来りて十二時まで見とりせり

正月も何もいぢく

二月十六日 曇 寒

今晚昨夜より母腹いたをおこせしに一時悪化す  
非常に心配せしもようよう平常となれり

夜一睡もせず朝まで余の目ますます悪化す  
ますます痛む

今日川島に四百七拾五円と山ぎめせり

一百円手金領収せり

今晚は父風気にて早ねせり

二月十七日 晴 暖

今日は連中が無いので鮫網へは行かぬ

今日は母が良くなって起きて食支度をすて居る  
いよいよ正月も無くなる

二月十八日 雪

今日は鮫網を見に行つて来た

二月十九日 雪

今日は網造りをすた

二月二十日 雪 暖

前日に変わらず

二月二十一日 雪 寒

前日に変わらず

二月二十二日 曇

今日も前日に変わらず

二月二十三日 曇

今日も前日に変わらず

二月二十四日 曇 寒

今日は前日と変わらさず 工場にて網造りだ 面  
白いぐらいに出来上る 一人でやっけていても

今日は幸福丸来て一時間損をすた

二月二十五日 曇 寒

今日も網造りだ 今日久太郎が手伝いに来て行  
った

風聞では有るが奥戸に火事が有って向町一家半  
焼けだそうだ問合せを出すた

二月二十六日 曇 寒

今日は上げ網に加藤二本取った

今晚は補習学校の終了後青年団の総会だった  
十一時までには終わった

注。大正中期佐井小学校に青年教育機関としての佐井水産補習

学校併設さる 前期二年、後期二年、研究科一年の五ケ年

大正十五年佐井村水産補習学校充當青年訓練所と名称変更  
軍事教練が主となる

以下三月十三日まで空白

三月十四日 雪 雨 西風

今日は朝から健太郎と久太郎と二人来て網がそ  
うとう出来上がった

今日は大湊の川島さんより杉山代金内式百円五  
十九銀行小切手にて送金有りたり

注。五十九銀行 第五十九国立銀行 下北銀行を合併吸収した

銀行で、昭和六年大佐井四十三番地に支店を新築移転した

現青森銀行の前身

三月十九日 晴 西風

今日も吹く 網は大たい出来上がったが手網が  
不足して出来ぬ

昨日は加藤鮫が四本も上がった

三月二十一日 曇

青森行く 途中無事三時入港

大風にて函館大火 出火は午後七時 四時まで  
に二万五千戸まで焼く 死者二千名

三月二十三日

函館行く途中荒れる 十二時入港

焼け跡を見ておどろく 死者および焼け跡を見てまわる あまりの酷さに目をすむる（閉める）

三月二十六日

今晚青森来るべく船に乗る

客多数にてねるあたわず

三月二十七日

午前五時入港 今日荷物は全部出す

奥本と活動見る

三月二十八日

今朝脇野沢定期舟にのる

今晚はお寺まいりをする

傘にて網を決める 網は其のままにて建て込む

ちもりにて百八拾円に定め手金百円渡す

三月二十九日

今日は脇野沢へ幸丸来りてのり来る

今日は雪降りだ

三月三十日 雪 寒

今日は午前中網ほどきをすた

正午よりねてすもう



三月三十一日 雪 寒

今日はきく子のおそうすき(葬式)が出た

今日は手網一枚造りたり

四月一日 晴 上風

今日は東風が吹いたが天気も良す 外にて網造りをすた

今晚は四月一日にて男子青年女子青年入団式及訓練所入所式を挙行せり

今日は弘の初入学式に兄として連行せり

四月二日 晴 西風

今日は前日通り網造りだ

今晚青年団役員で村総会で当校先生の取替方を相談せり 一定せる言にて書面を差出すはず也

四月三日 午前曇 午後晴

今日はわらぢなを打った

午前中は一度雨が降ったが午後より好天気となつた

今晚は夜業をする

四月四日 午前曇 午後雨 西風

今日は桜まますがさす網で五六拾本も上がった

僕等はコールトールで網そめをすた  
午前中に終わって午後休む

四月五日 曇 寒

今日は手網造りをすた  
今晚夜業をする

四月六日 晴 暖 西風

今日はかた入れの支度をすた  
明日は風次第によってはかた入れをする積もり  
だ

四月七日

☉組合より焼足七拾八個借用

四月十二日 雨

今日は雨降りで気持ちの悪い日だ  
何だか仕事が手に付かぬ 陽気の加減で気分も  
良くないので何にもせぬ

四月十三日 晴

今日は<sup>〇</sup>組ではます二千本も水揚げせり  
我等は行かぬ  
ちな打ちをすて後網出をせり

四月十四日 晴 西風

今日は昨夜の風に名残をとぐめそうとうの波が有る 浜中までは波が来て居る

昨日沖へ出て見ないが気に掛かって致し方が無

い

今晚夜業翁に手伝う

四月十五日 西風

今日はみご網でのり上げ切りをする

今晚は御湯に入る

明日は凧た様だ

注。みご網 稲穂の芯で作った縄（実子縄）で編んだ網 強度

がある

四月十六日 曇

今日は網おこしをすたがさつぱりのつて居らぬ

あまりに残念だが致し方が無い

今日坪田さん達が小屋掛け

は網附をすた

四月十七日 午前曇 午後晴

今日はふのり取りだと云うので久子をのせて網おこしがてらに出掛けたが風が吹いてきたので網を起こしとすぐ逃げて来る

途中久子が舟よいが出た

今晚は村に寄合が有った

四月十八日 暖

今日はのり上げ造りをすた

今日一日では全部出来ぬ 明日も一日掛るだらう

四月十九日 晴 暖

今日は健太郎の家の屋根ふきを手伝ったので御馳走になった

今日は又聞きでは有るが脇野沢が大火との由にて電報にて問い合わせをす

四月二十日 晴

今日はます百本ばかり取りたり

今晚は父が脇野沢へ行くと云うので忙しい  
ます一個

バラ少々

正吉丸積

長内行き

四月二十一日 晴 暖

今日は父は脇野沢へ火災見舞いに行く

僕等のはのり上げを造った

今日は川島の兄さんが来てこびき（木挽き）

を連れて来た

四月二十二日 晴

今日は網おこしをすて来た 魚がさつ  
ぱりのらない

今日は手網造りて後たまくゝりをせり

幸福丸

ト口函入 一個

ホツケ

カレソイ

長内

注。玉括り 硝子玉（浮玉）に縄で網のように縫いつける作業

四月二十三日 晴

今日は網ゆいをすた

今日又の幸丸の天下しだったので父が送られて  
来る

網はもって来たが奥たまりがくさって居って閉  
口すた

注。天下し 新造船の進水式

四月二十四日 曇 雨

今日幸丸に引かれてあみおこす 並びに小屋材  
料しぱりをすた

魚はあまりにのらざるす拾式本に小魚少々のおつ

て居った

今日は牛滝の澗の中の漁場を借りることにすた  
バロメーターが大変に上がったので幸福丸が上  
がった

幸丸

マス拾壺本

小魚少々

長内

注。小屋材料しぼり 夏漁のための番屋を作る材料を舟で運搬  
するための作業

上がった 陸へ捲揚げた

バロメーターが上がった 気圧計の針が低気圧になると上  
を向くようになっており、悪天候が予想される 針が立つ  
ともいう

四月二十五日 曇 寒 西風

今日は一日網造りだ

今晚神主が来て父はいそがわしかった

明日は山行きになるかも知れぬ

四月二十六日 午前曇 午後雨 寒西風

今日は山へちる(蔓)切りに行って来た  
午後中たまりを造る

今晚鳴海先生に呼ばれて青年幹部連中が学校に  
集まる 先生より以前の相談のことを聞かれて

我々も少々閉口す 先生は異動期までいるだろう

注。鳴海先生 佐井村立佐井尋常小学校牛滝分教場分校主任

鳴海宏静（昭和四年九月〜十一年四月勤務）

四月二十七日 晴

今日は奥たまりに網入れをすた

幸丸が来て注文物が来た

今晚は夜業をせり

四月二十八日 晴

今日は網起こしをすたが魚がさっぱり乗って居  
らぬ

今日はいかりを造る

四月二十九日 晴

今日は当村の神明宮の命日だ

若者連中は町に下って御祭りのまね事をする

四月三十日 雨

今日はロップをコールタル染めをすた

後いかり仕度をすた

五月二日 午前曇 午後晴

今日は網上げをすて牛滝の澗に入れる

正午より風出て大変に骨をおった

今晚豊作由一順治の三人に馳走する  
網上げ

五月三日 晴 西風

今日午前中いかり使いをすて午後網入れをすた  
今晚正義勇吉三次郎三人が手伝ってくれたので  
馳走す

網入

五月四日 晴 西風

今朝少しぐらい魚がのつて居るかと思つて出掛  
けたら思い掛けなく乗らない  
午後網造りをせり

五月五日 晴 西風

今日はいわしを少し取つた  
午後舟出をすた

送り 幸福丸

イワシ入

ト函入 拾四個

折入 六個

六函 一個

小魚 六函 一個

長内



五月六日 晴

今日は凧ぎたので小屋掛けに行つて来た  
ふのり取りだったので取りに出掛けたがさつぱ  
り無い

今日翁がいわし八拾箱も取つたそうだ  
途中又の幸丸に荒川まで引かれたり

五月七日 晴

今日は廻り漁場す 小さき網立つて見た  
今日は一日動いた

ト函入 生一個

六函入 一個

幸福丸

長内送り

五月八日 晴

今日は朝網をおこして見たらさつぱり魚がのつ  
て居らぬ

今日は中網と沖の網のかた入をすた

明朝凧ぎて居れば網附けだ

五月九日 雨

今日は網はかい（羽交い）をすて立込みたいと  
思つて居たが雨降り風が出て来たのでやめた

注。網はかい 網地と網地を縫い合わせて一枚の網地とするこ

と

五月十日 雨

今日は一日雨降りて休む

五月十一日 晴

今日は網入をすて後小女子が来たので小女子取りをすた

今晚は家に帰る積りだったが北風が吹いて見合  
わせる

眼鏡網は今日で五日目だ 明朝は網おこしをす  
る積だ

小女子 石箱 八個

注。小女子を対象とした夏漁では漁場に近い番屋暮らしをして

暮らしした(図一参照のこと)

眼鏡網 中層式の定置網の一種で、両端に落とし網を持つ

石函 石油函(十八リットル二缶入る木製の函で魚箱に利

用した)

五月十二日 晴

今日は物品廻し及び眼鏡おこしをすべく幸丸に  
引かれて行ったら一昨日幸丸が青森行きの時にお  
こしたとかで魚がさっぱりにならないで沖袋のいか  
りが引けて居った

家に帰って見て久子が何くれとなく世話を焼い

てくれるのが何となくうれしかった

途中まで又幸丸がむかいに来て呉れたので引かれて来た

今日も小女子を取る

小女子 石函 七個

注。幸丸（さち丸）

五月十三日 雨

今日は一日雨降りだ 小女子が見えているので時々網をおこした

今日で小女子が見えてから三日で二俵のシホ（塩）が無くなったので健太郎を家にやる

バロメーターが上がったと云うので六網を上げる

八時頃まで夜釜をたく

小女子 石箱 拾七個

注。六網 二ヶ統の網

夜釜をたく 漁獲した小女子を鮮度の良い内に大釜で塩茹でして乾燥させる作業のことで夜遅くまで大変であった

五月十四日 雨西風

今日は朝から大雨降だ 西風もそうとう吹いて居る

今晚は早くねる

五月十五日 午前雨 午後晴

今日も西風が吹いて居る 午前中雨が降ったが  
午後晴れたので小女子を附けたがさっぱりかわか  
ね

注。小女子をつけた 塩茹でしたものを庭に手で拵げて乾かす  
こと

五月十六日 晴

今日は天気も良く小女子は大分干上がった  
晩方大箱八個ちめた(詰めた)

明朝は検査のため牛滝まで行かねばならぬ  
小女子 石箱拾一個

注。検査 徴兵検査のこと

五月十七日 晴

明朝は検査のため佐井まで出張せずばならぬの  
で今朝早く当村まで来る

途中無事 七時半頃着 後眼鏡網をおこして  
幸丸に積ませる 六箱に三個有る

後いかりを直して後湯に入る  
久子齒をぬく為幸丸にて青森に行く

五月十八日 晴

今朝は早くより舟にて佐井出張致しべく便乗せ  
り

長後に至りて長後より又佐井の舟に便乗せり  
今晚友達五人丁町さまようたり  
午後十時帰宅せり

五月十九日 晴

今日は佐井九時発トラック式台に分乗して田名部に出発せり

午後一時半着 途中無事に田名部にて下の家に香典持つて行つて夕食せり

五月二十日 晴

今朝六時山上を出で第二校舎に向いり

午後一時半検査終了せり

友達は即時帰村 余だけのこり後金谷の白神様に参拝せり

注。白神様 むつ市内にある

五月二十一日 午前曇 午後雨

今日は九時四拾分田名部発 途中にて雨に降らる

午前拾一時大畑着 浅沼によりて昼食を食つて三時出発せり

異国間四時半着せり

五月二十二日 雨

今日は出発の予定であったが大雨降りであったのでやめる

午後自動車が来る積りだったが車体検査の為来ぬ

今晚朝日新聞の活動を見る

五月二十三日 晴

今日は天候良くなった

今朝一番が来る事に成って居ると云うので待ったが定時間に成っても来ぬ

正午過ぎに来たりて異国間一時出発

途中にて自動車みぞに入ってようよう上げ佐井着四時で有った

今晚松本の処にて夕食を馳走に成る

五月二十四日 午前曇 午後雨

今日は五八幡丸にて帰村せり

今晚御礼状を書く

五月二十五日 雨

今日は網をおこして少々漁が有った

いよいよ濶だ 途中雨が降って閉口せり

其の後西風が吹いて沖へは出られぬ

今晚は内南部の小屋に泊まる

注。徴兵検査が終わって又夏漁のため濶の番屋に向かったので

ある

内南部 脇野沢北海岬以東を指す(内海) 脇野沢では北海岬以北武士泊までを外海と称して六カ所の番屋があった北から武士泊(二ヶ所)、面木、青石、穴間、細間とあった穴間番屋を利用したらしい

五月二十六日 午前雨 午後曇

今日は波が高くておこし舟一そうにて網おこしをする

小女子も見えているけれども取らぬ

昼頃より風もだんだんおだやかになったので沖へ出る

今晚風呂に入る

小女子 四個

五月二十七日 曇

今日も波が高くて小女子取りは思わしく無い

今晚又に行つて見ると今朝網を潮の為にいためたそうだ 夜業に手伝つて来る

五月二十八日 晴

今日は凧たので小さい網を二つも立てた

晩方又の網をおこして小女子六個取りたり

今朝坪田さんの網が流れたり

小女子 石箱拾個

五月二十九日 曇

今日は朝より小女子が見えずに居りたれども其の後少々来たりて九個取りたり  
今晚早く若者達を休ます

五月三十日 午前曇 午後晴

今日は女達を幸丸にて家に帰す  
其の後潮の為に取らなかつた  
今晚も潮の為網が見えない  
小女子 石箱七個

注。潮の為網が見えない 強い潮流のため浮印が沈んで見えな  
いため網起しが出来ない

五月三十一日 晴

今日は天候は良く小女子五個干上がる  
今日全部で拾一個青森へ出す  
今日家より砂糖が来たのでたんてきをこしら  
いた

注。たんてき 残り物のご飯を荒く潰して串に長く丸く塗りつ  
け味噌をつけて焼いて食べる キリタンポのようなもの

六月一日 晴

今日は小女子がさっぱり見えぬ  
幸丸が来て今滝へ行って二時間も遊んで来る



今晚舟を洗って居る内に日が暮れかかった  
小女子 石箱二個

六月二日 晴

今日父が来る

小女子 九個

六月三日 曇

今日幸丸に引かれて家に行く

小女子 五個

六月四日 曇

眼鏡をおこしたら折り三枚取った

正吉丸にて引かれて来る

今日は西風が吹いて居るがあまり強くも無い

小女子 五個

六月六日 曇後雨

今日幸丸で内南部行く

蛸田にて下船 脇野沢へ行き焼跡見たがたい  
いバラックだ

晩方蛸田にもどる

六月七日 曇

今日は蛸田に居った

たいくち（退屈）でたいくちで致し方が無い  
あみからみをすて手伝う

六月八日 晴

今日は内南部より来る

穴間にて弁より鱒網を積んで来る

小女子はさっぱり見えぬ

六月九日 晴

今日は眼鏡を上げて其のかた直しをすた

三十郎澗の坪田の若者が手伝ってくれて大助かりだった

晩食は午後九時食す

網上

六月十日 晴

今日はかた直しをすて後網造りをせり

今晚早ねすたり

六月十一日 晴

今日は一日網造りだ

父等は三十郎澗に行く

川島さんの処に行きて杉皮五拾間分出さす

注。杉皮は小屋等の屋根葺と外壁（サクリ）に使用する

六月十二日 晴

今日は網造りをせり

六月十三日 晴

今日は三十郎澗より人来たりて網入をせり  
網入

六月十四日 晴 西風

今日は三十郎澗に廻漁せり

六月十五日 晴

今日は網上げをすた  
朝食前に全部上げて<sub>て</sub>に<sub>て</sub>遊ぶ

六月十七日 晴

今日は網へ手網を造って附ける

六月十八日 曇

今日は家より省一と二人で三十郎澗に来て小さ  
き網二つ立つる

六月十九日 晴

今日は午前中古網を調べて昼食って後 の大  
安丸が来たので同乗して穴間に行きたり  
其の中に代議土工藤日東さんものつて居った

そうとうの白いおずいさんだ

牛滝に行きて幸丸と大安丸と二舟なら  
んで走った 僕は幸丸の舵をにぎった

六月二十日 午前曇 午後雨

今朝曇りて居りたりしが後雨と変わりぬ  
坪の粕を入れるに骨を折る

六月二十一日 雨

今日は朝からの雨だったので外仕事も出来ず小屋で  
ねていた

晩方坪田さん達が鯛百箱ばかり取り取りたり  
後又に手伝って七八拾函取りわく入れにして沖  
に掛けおく

又番屋に泊まる

注。わく入れ（粹入れ） 漁獲した魚が大量で処理出来ない時  
小さい網に移して生かしておくこと

六月二十二日 晴

今朝又に手伝った

又では五百函ぐらい取ったろう

其より僕等省一と二人でかた上げをせり

注。かた上げ 網を撤去すること

六月二十三日 曇

今日は前日の通りの鯛漁が有った

僕はちなを陸へ上げて後坪田の人達に手伝った

六月二十五日 晴

今日は家に物廻しをすた

網をおこして見たら青葉十メばかりのつて居った

今日坪田さん達が折り十枚ばかり取ったそうだが  
明日もまた物廻しだ

注。物廻し 春の小女子漁期の終了により、漁網や生活用品等

を番屋から牛滝の家へ船で運搬すること

青葉 一、二キロ前後の中ヒラメのこと

六月二十六日 曇後雨

今日は切上げの為に三十郎澗の若者が手伝つて  
呉れた

舟の発動機とメがのつて引舟をすてくれる

今晚は雨が降る

注。切上げ 漁を終了すること

六月二十七日 午前曇 午後雨

今朝網を川より上げ干して後網おこしに出掛ける

鯛が乗って八時までも沖に居る

幸丸にてト箱三個送る

午後雨が降る

注。網を川につけるのは網についた付着物を真水で殺してから乾燥させて除く為に行なった。当時は綿網であり腐りやすく貴重品扱いだった。

六月二十八日 午前雨 午後曇

今朝鰯十四五個取る

晩方青年団の集会有った

六月二十九日 曇 東風

今日は青年団の協同事業にて野平に買出しに行  
った

今日は眼鏡で鰯五十個ばかり取ったそうだ

今晚官舎に行つて旦那様に契約を頼んで来る

注。旦那様 佐井営林署牛滝担当区事務所森林主事のこと

六月三十日 雨

今日は山へ行く積りで有ったが雨の為やめた

観音丸にて生三個送る

今日岩手県のテンテン釣の舟が来て（漁具を）  
見せてもらった

注。テンテン釣 釣り糸を手でしゃくってヒラメなどを釣る漁法

七月一日 雨 東風強

今日は朝網へ出て見たが魚もろくに見えず又鰯

も無い

午前中幸丸の機関士が来て正午餅をこしらえて  
馳走す

今晚税金を出ずに学校に行つて来た

七月二日 雨 午前雨 午後晴 西風弱

今朝沖へ出て見ると鯛が少し掛かつて居つたの  
で其を取った 石箱にて拾貳個取りたり

明日は又山へ行かなければならぬ

七月三日 晴

今朝川より網を上げそれより青年団の事業の為  
山へ行く

七月四日 雨

今朝網をおこして卜函四個六函一個幸福丸にて  
送る

今日は九時頃より雨に成り其の後網造りせり

七月五日 晴 西風

今日は青森へ行くので幸丸を晩まで待った

午後六時牛滝出港途中二回も故障おこして六時  
間もかかつて翌朝午前一時半に着す

七月六日 晴後雨

今日は又行きて勘定せり

百円より取前にならず

又二百円からの前借りをせり

今晚柴田機関士と二人で電気館に行く

今晚十二時の舟にて発つたり 余等送る

注。取前 仕込問屋からの前借を漁獲物の委託販売代金で返した後手元に残った収入

電気館 長島夜店通りにあつた映画館 昭和八年当時映画

館は青森市内では堤橋角の青森館、塩町の文芸館、歌舞伎座、新町駅前の日活常設館などであつた

七月九日 曇

今日は買物をすて舟に出す

其の後舟に行きて見たるに未だ機関が出来ぬ

七月十日 晴

今日は一日ねで晩川に行くと又さんと坪田さんとに会つた

今晚又さんと坪田さんと三人で夜店を見る

注。川 堤川のこと

七月十一日 晴夜雨

今日は一日舟でねて午後又さんと二人で舟の息子の処に見舞いに行く

今晚あまりたいくち（退屈）なので活動見て来



た

七月十二日 雨

今朝青森七時出航す 午前十二時着

雨が降って閉口せり

今晚網をおこして見てさっぱり魚がのらぬ

今晚勘定の下調べをする

七月十三日 雨 東風

今日は春網の勘定をせり

今晚は勘定祝いにて七時頃までのみたり

いよいよ今年度の春網の総計算も終わり

今晚青年団役員会議有りて今年度の総会には五  
名出る事に相談する

七月十四日 曇 雨

今日は青年団の共同事業をせり

又今晚は手紙に二通来りて如何にせしば良きや  
考中なり

七月十五日 曇

今日は当村の大寄合だ

弁坪田さん達が来て大酒を飲む

今晚は弁さん達が泊まる

注。大寄合 以前、牛滝地区の集会で正月と七月の二回行なわ

れていた 大奇合では決算報告など行なわれた様子

七月十六日 曇

網造りをせり

今朝命坪田さん達が早く出掛けた

七月十七日 晴

今日は午前網造りをすて午後網附けをすた

今晚七時頃までにようよう附け終わった

七月十八日 晴

今日は網造りだ

七月十九日 雨

今日は直太郎さんが午後に来て網造りをせり

□一個長内より来る

注。□ 氷の蕤包みのことか？

七月二十日 晴

今日は一日網造りだ

ト函入 魚？一個

タイ 二十三枚

大鱈 十枚

正吉丸

七月二十一日 曇

今日は（旧暦）六月十日で宮詣の為一日休まる

今晚は早ねをする

今日は青年団では公業の為おいわけ（追分）を立つる

今日昼いわしを舟が五はいなり（船五艘分）取りたり

注。追分 道路標識のこと

七月二十二日 晴

今日は朝網造りをすて観光団が来たので其のはしけ舟に行つて来る

はしけ賃として十三円二そうよりもらい

今日の漁

青羽十枚

小鮒二十枚

スズキ一本

注。仏ヶ浦は昭和九年十月に青森県天然記念物に指定さる ま

た昭和十六年四月には文部省天然記念物に指定さる

七月二十三日 曇

今日は部分林組合の切払いだったので金作を出すたり

我等は前日通こちこち網造りだ

昨夜いかがちいたので今晚出て見たが一ぱいも  
取れん

七月二十四日 午前曇 午後晴

今日も前日通り網造りだ

組合の切払いも今だ二三日も有るそうだ

今日網をおこしてまぐる一本中たまりより取る

今晚いかちりに行ったが一ぱいより取らぬ

今日の漁

青羽 大小十枚

スズキ 一本

本マス 一本

小鯛 五枚

注。本マス サクラマスのこと

七月二十五日 晴

今日は我等は網造りをせり

今晚別家の御湯に入った

今晚いかつりに行ったが一ぱいも取らなかつた

父は寄合いに行った

七月二十六日 晴

今日も網造りをすてすぶ立てをせり

今晚向山の神様に漁場の祓いをすてもらう

注。すぶ立て 櫛の木の皮などを釜で煮て皮からシブを出す作

業 エキスをカッチといい網染め（すぶ煮）に用いて綿網  
の防腐剤とした すぶはしぶの訛であり染皮

七月二十七日 晴

今日は幸丸にて折六枚送る  
後網造りをせり  
すぶ煮をせり

七月二十八日 雨

今日は納屋にて玉くり及びせき掛けをせり  
秀太郎が手伝ってくれる

注。せき掛け ロープに古網を捲きつけ摩耗を防ぐ作業

七月二十九日 晴 西風

今朝いわし少々取りてそれを煮てコールドール  
染めをせり  
一時頃コールドールに火がちいて大変なさわぎ  
をせり  
それでも大事に至らずすんだ  
今晚御湯に入る

七月三十日 晴

今日は幸福丸にて折二枚送る 後山へ行く  
今晚御湯に入る

七月三十一日 晴

今日は朝下（しも）の中たまり奥たまりを取り  
かいて（取替えて）後いかり仕度をすた

明日はかた入れをする積りだ

注。かた入れ 型入れのことで、定置網の身網を入れる前に網  
を固定するために身網の形に綱を張り、錨で固定すること

八月一日 晴

今日は小荒川のかた入れをすた

後、夜、寺に行きて絵をかく事を頼んで来る

注。当時の住職は川口紫光と言ひ絵描きであつた

八月二日 晴

今日は小荒川の網ゆいをする

一日がよりでゆつてしまつた

今晚うどんの御馳走で大食いをせり

八月三日 雨 南風

今朝三時頃よりはらいたをおこしてはいたり下  
つたり閉口せり

後一日ねて居る

今晚松本さんが来たが連（つれ）が来て今に泊  
まる

八月四日 晴 西風

今朝は天気は良いが西風吹きて内南部の観光団が見えなかった

松本兄貴が昼から家に来て居る

僕は昨日から腹いたをおこして今日もねて居る

八月五日 晴

今日は午前中網仕度をすて午後網入をする

今日は荒川の網も僕等の網も小鯛取りたり

今晚菓子食いをする

注。網入 型入れした網に身網を取り付ける作業

八月六日 晴

今朝小荒川の網に行つて見たが魚が一疋ものつて居らなかつた

天候が良いので昆布取の通知が来た

今晚幸福丸に引かれて磯谷まで行く

磯谷に一泊す

八月七日 午前雨 午後曇

今日は朝曇つて居りたれども口開をせり

二時間余り取りて後雨模様となり旗の合図で引上げり

後大雨となりたり

午後晴れたれば昆布干したり

後小荒川の網おこしをする

小魚少々食用とする

八月八日 曇

今日は朝一時間ばかり取り取りたり

後すぐり取りに行く

父は午後幸丸に引かれて来る

注。すぐり取り 昆布取り現地小屋は長後と磯谷の中程の穴間

にあつた模様 その付近の畑のものを無断で頂戴すること

八月九日 雨後晴

今日は雨天の為昆布取りはやめる

午後晴て昆布干して手伝う

八月十日 晴

今日は昆布を取りたり

余は潮の為さっぱり取れぬ

午前十一時発動機舟に引かれて来る

午後又磯谷に折返し

八月十一日 東風

今日は雨天なので磯谷に舟おきて幸福丸にて牛

滝へ来る

後昆布の赤葉取りをせり

夜未だ雨が降って居る

バロメーターが上がって居る



八月十二日 雨 西風

今日は昆布の赤葉取りをすた

ぬ  
晩方小荒川の網をおこして見たが良い魚がのらぬ

今晚はとつてもあちい（暑い）

八月十三日 晴 風

今朝網おこしをすて見る

小荒川にすゞき二本 前浜はスゞキ十五本取り  
たり 五八幡丸にて送る

昼より大湊要港部の航空兵が仏が歌（仏ヶ浦）  
を観光に來たのを乗せて行って來た  
帰ってすぐ磯谷に昆布取りに行く

八月十四日 雨

今日は雨降りだったので昆布取りは休んだ

八月十五日 晴 西風

上風が吹いて居るが昆布取りに行く

十時頃まで取りたり

上がってより帆ぬいをせり

八月十七日 晴 西風

今朝も昆布取りが有った

僕等は発動機に引かれて帰るべくいそいで  
来たがおくれてこいで（漕いで）帰る  
網おこしをするが魚が無い

八月十八日 晴

今朝天候が悪険だったので昆布取りには行かずに  
ちな打ちをせり

昼過ぎに久太郎が千代丸に引かれて帰る

午後もちな打ちをすてそれより針金四拾尋ばかり  
合わせる

明朝より組合の公休日なので網上をする積りな  
り

注。ちな打ち 藁縄を三本よりをかけて網にすること

針金四拾尋ばかり合わせる 土俵のアンカーから取るアン

カーロープに太い針金を二本又は三本添わせて摩耗に対す  
る強度を確保すること

八月十九日 晴

今日は網上の積りにて沖に出で見れば潮流早く  
よくよく事出来得ず

観光団来たりてそれに頼まれて仏ヶ歌に行きあ  
わびを取りて喰らわす

青森（より）千代丸も来たれり

午後四時より網上げ

八月二十日 晴

今朝食前沖に行きてかた上げをせり

全部上げたり

昼より昆布赤葉取り又昆布ゆいをせり

父達は昆布取りに出掛け余はのこれり

今晚夜業にて昆布ゆいをせり

注。昆布ゆい 干し揚げた昆布を規定の大きさにあわせて結束

すること 当時は長さ三尺、目方四貫が標準であった

八月二十一日 晴

今日は一日眼鏡網のちな調べをせり

今晚は食後すぐねる

八月二十二日 午前曇 午後晴

今日は前日通りちな網造りをせり

今日父達が昆布取りより帰る

食後雨が降る

八月二十三日 雨

今日は一日雨降りだ

八月二十四日 午前曇 午後晴

今日は母達が函館より昼頃千代丸にて帰村せり

八月二十五日 午前曇 午後晴

今日は当村の若者達の盆中一番楽しい日だ  
今晚は盆踊りが立った

八月三十日

網入

九月五日 曇 東風

今日は青森より午前六時出港 午前十時安着せ  
り

後木積に頼まれて木あつめに行つて来た  
今晚は何にもせぬ

注。木積 木材運搬船（専用船）

九月六日 雨 東風

今日は大雨降りだったので一日一ぱいねて居る  
後大波来たりて夜さばぎ（騒ぎ）を演ずたり

九月七日 晴

今日は昨日の名残はからりと晴て良い天氣に良  
い凧だ

沖へ出て見たらわら綱六十間は全部おつた

午後父達が来て網をおこして見たらスズキ七八  
十本小魚少々取りたり

後手網造りをせり

九月八日 曇

今日は幸福丸を頼んで拾円で青森へ行  
つてもらう

後手網造りをすて晩方土俵を作つて来る

今晚は腹ぐあいが悪い

折十一枚送る

九月九日 雨 大安

今日は大山せだ

発動機舟が四艘も（網に）かかった

今日は手網が出来たが風の為ちけれぬ

注。大山せ 強いやませ（東風）

手網 垣網のこと

九月十日 雨 暖

今朝朝食前に手網を付け掛いた（替えた）

五号八幡丸で函館の白井の人達が来た

九月十一日 晴 西風

今日は幸福丸にてト函一六函一送る

今日は一日ねて居る

九月十二日 晴 西風

今日は山へ木落としに行った

晩までかゝる

注。木落とし 急斜面で立木を伐採し平地に落とす作業

九月十五日 晴

今日はあわび取りをすて後荒川でくらほごくす  
取りをすた

今晚いかちけに行つたが三ばいつけた

注。くらほごくす 山の果実か何かか 不明

いかちけ いか釣

九月十七日 曇

今日は小荒川のかた上げをせり

九月十八日 午前雨 午後晴 西風

今日は雨が降つたので何もせず半日を暮す

午後網すきをせり

注。網すき 網目づくり又は網地と網地を網目を造りながら一

枚(一反)に合わせることに

九月十九日 午前晴 午後曇

今日は一日中西金太郎さんの屋根ふきにたのま  
れて午後六時頃までかかつてようよう終る

今晚学校に行きて先生夫婦に未婚者と既婚者と  
の此に対する心得と云う御話を聞いて大変今後の  
参考になると思つた

男女二人で居る時の精神の作用は同一では有り

得ないと云うことを今後父母の居らぬ時に於て初  
めてわかつた様な気がする

九月二十日 雨

今朝より雨が降り出す居れども大降とはならず  
昼頃より父達が帰って網上をせり  
其より雨は大降となって身体中よごれたり  
魚のらぬ事悲観すて終う  
網上げ

九月二十一日 雨

今日は朝から大雨降りだ 後下風に変ず  
今晚学校に遊びに行く  
先生が居らぬので淋しいだろう

九月二十二日 雨

今日も細雨が降って居る  
今日は網造りをせり  
今晚学校に行きて湯に入つて来る  
今晚新聞にてカラムシ栽培と云う事柄を見た  
県に問合せ見る積りだ

注。カラムシ イラクサ科の多年草で皮の繊維から織物を造る  
ため栽培された

九月二十三日 雨

今日は雨降りだが手網造りをせり  
昼食後高橋の網をおこして見たがスズキ一本よ  
り乗って居らなかつた  
今晚学校に遊ぶ

九月二十四日 晴 西風

今日は昨夜来の風が凧もやらず吹きすぎる  
昨夜発動機船を上げるに拾式時に起こされて四  
時間掛かつた

余等は手網造りて後舟積みをせり  
今晚学校で新聞を見たが京坂地方の風害の甚大  
なるにはおどろいた 学校が七拾七校もつぶれた  
そうだ

注。九月二十一日の室戸台風の被害であり関西方面で甚大であ  
った 本県でもりんごの落果など大損害あり（年表参照の  
こと）

九月二十五日

今日はいかりを直して後網入れをする  
午後八時までかかつた  
今日高橋達がスズキ式拾本取つたそうだ  
本は何だか百本も取つたそうだ

九月二十六日 晴 風

今日は東京出発との予定にて五八幡丸の帰港を



待ちたるに來たらず思いとどまる

今晚学校に行きて新聞を見る 京坂（阪）地方の非害（被害）の甚大なるにはおどろかざるを得ない

注。東京行き 九月十日函館から来ていた白井の人達（解説参

照）が東京移住のため青森に向かうこと

九月二十七日 晴 西風

今日は朝より西風が出て吹いて居ったが幸丸が出港との事にて東京行きが便乗する  
丸町ものつて居った 直太郎、健太郎ものつて来た

午後十一時急行連（列）車にて出発せり  
駅まで見送る

青森とは君の名は都会なり ネオンサイン 楽音 何に彼と若人をひき付け彼の心をまひする

君の名都会 何となくおそろしき名調なり  
今日は△の倉庫にて底網見たり

九月二十八日 晴 西風

今日は朝食後東京に電報打ったり後昼まで⊕に居りて長内に行く

相馬町の倉に行きて網を下調べをすて新規網の事で事定まる処まで行きて網の若者より口実来たりて明日まで延期せり

其の後きまるやらきまらぬやら  
家に居る連中にすまぬ

九月二十九日 午前曇 午後晴

今日は又も十時長内に出掛けたり  
大旦那が居ったが若旦那が居らぬ 四時頃までが  
んばる

其れより外交を附けたが結局は出せぬ様だ

あゝ此のまゝ帰村すて何で仲間の人達に顔を合  
わされよう

何と今年は苦しき年かな 金金金だ

金の世の中だ 何者も金力には負される

金さい有ればどんな事でも人々は信用する

すかす（然し）人間ぐらい段違の位置に居る者  
はないだろう

夜雨降りたり

九月三十日 晴

今日は一日ねて居る

今晚幸福丸が出ると云ふので八時来る

十月一日 曇 北西風

今日は午前五時青森出港 途中北風が吹いて九  
艘泊に寄港す 櫛引留彦氏の家で御世話に成る

午前十二時九艘泊出港 平館に寄港す

夜店屋にて菓子を喰いながらラズオを聞く  
今晚幸丸でねる

十月二日 晴 西風

今日は平館より午前五時出港 当地に向かいた  
り 午前九時着

其れより沖に出て網を見たるに下の袋にすぎ  
式拾本ばかり見えたり

後いきす（生簀）造りをせり

晩方久太郎が山より帰りたるに網おこしをせり  
すぎ大小拾本取りたり

今晚学校で遊ぶ

スゞキ三十本

十月三日 晴 風

今日はスゞキ十本取りたり

今日は幸丸にて魚送る

手網を附け後ちなを取りかたちける（片付ける）

十月四日 午前雨 午後晴 西風

今朝午前三時幸福丸が西風と共に寄上

ったのを知らせておろして手伝う

夜明大雨降りと成りて後やみ天気良くなりたり

今日はいけすを造り後手網一枚造りたり

今晚部屋取りかた附けをせり

注。寄上がる 強風と波浪により船のアンカーが曳かれて前浜  
に吹き寄せられること

十月五日 晴 西風

今日は一日まき背負いをせり

十月六日 晴 西風弱

今日は網をおこしてスズキ五拾本ばかり取りた  
り 幸福丸にて送る

宮川の網は一本も取らぬそうだ

僕等は今日いわし網を木取る

今日は福山の柴田さんより干しいか一ぱ土産に  
来る

スズキ 五拾五本

大鰯 二枚

小魚若干

鮭 一本

注。宮川 漁場の一つで現在の荒川のこと

十月七日 晴 東風

今日は網をおこして後そいちり（釣り）に出掛  
けた 三人で十ペぐらい取った

今晚鱈網組連中より返信有り

玉造りは仕入網はやめる事にすた

スズキ 七本

鮭 一本

鱒 若干

大鯛 一枚

注。鱒網組 脇野沢の同業者と組織した組合のようで、現在で

も両組合で漁期前の交流会を持っている

十月八日 晴 凧

今日は朝網をおこして魚を送る

後手網造りをせり

昼後杉山を売るに出掛けて見た

今晚官舎に行つて来る

青森三常さんが来て行つた

十月九日 晴 凧

今日も前日通り手網造りにせわしい

其折りすも仏が浦観光団が二人来たりて其御共  
をすて一円もらう

後又手網造りをせり

十月十日 晴 凧

今日は高橋さんの眼鏡網上げを手伝った

今晚高橋さんの内に湯をもらつて入つて来る

十月十一日 晴 凧

今日は朝家のごろわをそうずす がらし(ガラ

ス）窓を洗ふ 後すやうず（障子）張りをせり  
何だか気が無茶苦茶すて何にが何んだかさっぱ  
りわからぬ

十月十二日 晴

今日は金作の替わりに山に行きてあなほりをせ  
り

今晚は学校の奥さんが遊びに来た

十月十三日 晴

今日は前日通りあなほりだ

今晚歌会が来たので行って見るがさっぱり面白  
くも無かった

注。歌会 津軽民謡一座の出張公演

十月十四日 晴 南風

今日は清一郎と二人で鮑取に出掛けた  
南風が吹いてさっぱり取られ無かった  
今晚新井六郎さんの処に手紙を書く

十月十五日 雨 西風

今日は昨夜よりの雨が今だ晴れず降りすぎる  
底網の図を引く

注。この図面は現存しており、縮小した図面と解説を巻末に付  
した

十月十六日 晴 西風

今朝網をおこしたが魚がさっぱり居らぬ

幸丸が青森より来りて母が佐井三上に行った

網ほぐしをする

今晚は読書で終る

今日の漁

スズキ 二本

鮭 六本

小魚 若干

注。佐井三上 佐井の唯一の開業医であつた三上医院(剛太郎)

十月十七日 晴 西風

今日は朝網をおこして母の来るのを待つ

幸丸に積ませて後底網の相談をせり

今日母が帰る

医者 of 診査によれば心臓病なそうな

早く良くなる様に

今日の漁

スズキ 拾一本

鮭 九本

フク 八九本

小魚 若干

十月十八日 午前晴 午後雨 寒

今日は網上げをせり

昼過ぎ雨模様と成ったので昼食を食って後始末をせり

七時半頃西風と成りて吹きすぎる

秋さる 秋も最早名ばかり 木枯しが吹きて木葉は落ちるばかり 木々の端はざくざくになりぬ  
今晚あられが降った様だった

此の頃は秋も終りに近づいたせいか何だか心淋しく心苦しい

人生の路上何程の障害物が有るだろう

思いは考ふれば何が何だかさっぱりわからぬ

鮭 忒本

小魚 若干

網上げせり

十月十九日 晴 西風

今日は一日網造りをせり

今晚廻り宿でこち造り一人泊まる

注。廻り宿 当時は旅館がなかったので全戸で順番に旅人（乞

食も同様）を宿泊させた

こち造り 靴修理職人

十月二十日 午前晴 午後曇 南風

今日は朝から網造りをせり

九時頃命大安丸来りて命さんと十時頃まで話を



する

晩方雨が降ったので大さわぎで網を造った

十月二十一日 午前雨 午後曇 北風

今日は網入をすた

豊治郎と勝雄と秀太郎と三人手伝つて呉れた  
今晚官舎（営林署牛滝担当区）で遊んで来る

十月二十二日 晴 東風

今日はあわび取りに行った

荒川にて一日居つて取つて来た

今晚宮部に漁場料金貳拾円払ふ

十月二十三日 晴 凧

今日網をおこして後五八幡丸の来るを待つ

昼過ぎ五八幡丸来りて便乗せり

途中無事 焼山にて機関にこしょうをすて四拾  
分ぐらい流れ居れり

午後六時無事安着せり

今晚三常さんの家にて遊ぶ

今日の漁

大鮭 五本

スズキ 二本

イカ 四五メ

フク金頭イ 若干

十月二十四日 曇後雨 西風

今朝九時までね坊せり

後と行きたるが大將居らで昼まで待つ

来りて客有り 話なり難す 三時過ぎ正面より  
談ずたりすにいよいよ古網の価を定めて買いたり  
三ヶ度（統）にて百五拾円也 其れでも良き具  
合かな

それで今晚すばい（芝居）を見に行く

十月二十五日 曇 夜雨 西風

今日は相馬町に行きて網荷造りせり

後本郷さんにて弁のあやに会ふ そして見舞一  
円代使ふ

今晚は⊗にて子供にかゝつて遊ぶ

注。あや 長男で後継ぎのこと

十月二十六日 曇 雨 西風

今日は午後三時までねる

後大安丸が入港したので網をちまさった（積む）

今晚午前二時出港のはず

十月二十七日 晴後曇 南風

今朝二時半青森発

午前六時着いた 後別家にて朝食すて喰い後家

に帰る

大安丸が青森行きなので網をおこした  
方々の袋がいたんで下の方にて少々魚を取った  
後大安丸にて又行く

本はスズキ百拾ばかり鮭五拾ばかり

□はサケ百ばかり取ったそうだ

今晚穴間に泊まる

今日の漁

スズキ 四拾本

サケ 二十本

小魚 若干

注。穴間 脇野沢管内外海番屋の一つで穴間山の下にあった

九艘泊から北へ約二・五キロ

十月二十八日 晴曇雨 北西風

今日は穴間漁場より磯舟にて蛸田まで送られる  
晝頃より出掛けたり

坪田の□の舟は悪くて取り止め

本さんの舟を本さんに定めてもらう

金三拾円也本さんよりろ（艀）二枚拾円也

都合四拾円也で定めたり

十月二十九日 夜雨 北西風

今朝は前日より風強す

本さんに行きて舟下げておく

明日は凧るやら凧ぬやら今晚命に泊まる

十月三十日 晴 西風

今日は大安丸に引かれて帰宅せり

午前十一時無事着す

今晚小学校に行つて御湯に入る

十月三十一日 晴 凧

今日は凧が良いので手網直をせり

父は⑧の屋根ふきに手伝に行けり

今晚官舎に行きて遊ぶ

十一月一日 午前晴 午後曇後雨 東風

今日はあわびの口開きだ 勝雄と二人で行つて来た

今晚夜業をする積りで有つたがやめた  
アワビ付き（突き）

十一月二日 午前晴 雨後大南風 雨

今朝は昨夜よりの雨が大降りと成つて降りすぎ  
る

後南風に変り大変に吹いて来た

晩方南西風となりてますます吹きちのる

夜に入つて波が浜中まで来る  
今晚宮部さんの処の帆を借りる約束をせり  
網がこわれぬ様神掛けて祈る

十一月三日 大南西風 時々雨

今朝昨夜来の風波は未だやまず  
やらいの中に波が入る

僕は網を見に行つた もう何も残つて居らぬだ  
ろうと思つて行つて見ると思いの外すらせの処に  
長くなつて居つた

出ずな(綱)も何も彼もさんざんだ

今日は底網のはさみ立をする

夜に入つても未だ風は凧ぎぬ

今晚青年団処女会合同終業式が有つた

僕は夜業の為行かぬ

注。すらせの処に 浮標識を置いた所に

出ずな(綱) 網建込み時に岸から胴網の本体まで張るロー

プのこと

はさみ立 網造り作業に初めて取りかかること

十一月四日 晴 西風

今日は前日通りの処に玉が居るが網が居るやら  
居らぬやら

網造りに急がしい

今晚も夜業をする

十一月五日 晴 風

一昨日よりの大風にて網は沖へ流れ出すて今日は網上げにいそがわしい

それでも良い具合であんか(アンカー)四丁見えない

今日は其でも網は大部分手取った

十一月六日 風

今日は朝からあんか尋ねをせり

良い具合に二丁見つけた

其より網ほどきをせり 良くくまってなかなかとけない

晩方海洋丸が長福寺方丈様を乗せて来て寄港せり

其にて僕は青森へ来る

青森着は午後拾貳時だ

注。あんか尋ね 紛失したアンカーを鉤を曳いて探すこと

長福寺 田名部円通寺の末派に属し古佐井谷地町に有り

十一月七日 雨 東風 後南西風

今朝より降り出した雨が日暮れてまで吹きちのる(つものる)

今晚は文芸館に活動見に行つて来た

長内より取前は六拾壹円より無かった

たのまれ物の貳拾円は鳴海君に渡した

十一月八日 雨 西風 寒

今日も一日長内に居るが兄が忙しそうなので何にも言わずに帰る

今晚は⊕に居る

十一月九日 雨 南風 寒

今朝は雪が降ったので屋根には白い物さい見え  
た

長内の兄にあまり注文が変わると云うので朝す  
かられる

今晚明日はロップ見るに行く積りらしい

十一月十日 西風 雨あられ

今日は前日の約束通り長内に出掛けたるが今す  
こしまてとの事にて又まつ居る内に組合の人と  
かゝ来て又おじんだ（オジャン？）

もうこんな事もこりごりだが金のない内はやっ  
ぱりこれをくり返さなけりやならぬ

十一月十一日 雨 西風

今日は長内に物を出させて後⊕で昆布をゆい直  
して手伝った

十一月十二日 晴

今朝正吉丸にのりおくれ幸丸にて帰る積りとす  
た

今晚青森館にて活動を見る

十一月十三日 曇 西風

今朝三時青森出港して午前八時着いた

今日は新網を切つてからんだ

今晚は勘定をする

久太郎に五拾九円あつた

十一月十四日 雨 西風

今日は風たので三時頃より起き出で、底網のか  
た入をする

潮が早くてようよう三丁いかりを使つてのびも  
取らで帰る

途中西風にて□る

今晚は夜業しる

福浦田中寅助が来てあわびをまけて呉れいと云  
つたが誰も承知せぬ

網のかた入

沖網

ガンカケ一枚出

三十郎濶沖

海深□尋



十一月十五日 晴 西風 寒 アラレ

今日は朝から網からみをする

晩方<sup>〇〇</sup>達がしぶにてすまったので私達が網を入  
れておいた

十一月十六日 曇 西風

今日はすぶ立をせり

夜業

十一月十七日 晴 西風

今日も前日通りすぶ立だ

夜業休む

十一月十八日 晴 風

今日は幸丸に引かれてかた入に行く

沖網は悪くて其を直しに大変だった

今晚は寄合が有った

十一月十九日 西風 寒

今日は舟に帆を掛けてより網造りをせり

今晚夜業しる

父は契約の為佐井に出張せり

十一月二十日 曇 西風 寒

今日は朝波が大変に上がっても少しで舟を流し  
処で有った

今晚は夜業をする

十一月二十一日 西風 寒い

今日はごろ木わりをすてより桐出しをせり  
後夜業をせり

注。ごろ木割り 船を巻上げる際用いるコロ(スベリ)を太い丸  
太を裂いて作ること

桐出し 浮印用に用いた桐材を山から切り出すこと

十一月二十二日 西風 寒

今日は足そろいをすた

後たて上げを入れて夜業をする

七拾匁足

三百四拾個

五拾匁 百三拾七個

四拾匁 四拾五個

カベ足 三百八十四個

注。足そろい ロープに等間隔に錘足をつけること

たて上げ 網の最奥部で魚溜り

十一月二十三日 南風後雨 寒

今日はかた直しをする積りで出掛けたり

然るに津軽舟が来おりて思ふ様にならず  
すぐ引帰る

後たち調べをせり

夜業はせきまきあしゆいをせり

注。牛滝管内の焼山以南の海域は古来から平館村漁民の開発し  
た鱒刺網漁場で、また、明治末期に開発された底建網最上  
の千石場所である

この漁場は永らく上磯漁民の占有場となっていた

しかし、戦後の新漁業法の施行によつて、また昭和二四  
年以降の大不漁もあり昭和二十七年に撤退するまで大臣専  
用漁業権認可（大正十一年認可）を楯に強引に入会漁業権  
を主張してきたものである。日記の昭和九年には平館村野  
田の漁業者が大威張りで入会していた

当時は焼山沖の北から南へ野田、杉、二ツ谷、蟹田の順  
に漁場を占有して居り、牛滝の漁業者はあまり漁の期待で  
きない陸側で小さい網を建て込む他なかつたのである

十一月二十四日 午前曇 午後晴 寒

今日はあげ入をせり

後夜業玉すらべ（調べ）をせり

注。あげ 網口の障子網のこと

十一月二十五日 晴 風

今日は朝から網ゆいをする

今晚も夜業をする

十一月二十六日 午前晴 午後雨

今日は手綱ゆいをすたが午後雨が降って来たのでやめた

今晚は二十日こ（講）なので夜業を休む

十一月二十七日 雨

今日は朝から舟のころ及び車造りをせり

僕は一日遊び役をせり

今晚は学校に行つて来る

注。車 底建網を網起しする時用いる滑車

遊び役 仕事をしなかったこと

十一月二十八日 西風 雪

今日は朝からばらばらと雪が降り出したので何にも手に附かずに居る

今晚は夜業もせず早ねをせり

十一月二十九日 西風 大風雪

昨日よりの雪が三四寸も積つた 寒くて寒くて何にも出来ぬ

今日は工場で綱をはなちぎをすて後足ちなぎをこしらいておいた

注。はなちぎ 綱の端を揃えること

足ちなぎ 沈子のついた綱の底部を自由に移動しないよう

にするためのロープ結び

十一月三十日 西風 雪

今日は手網ゆいをすて後晩税金を出しに学校に行つて来た 後小さい網を作る

みご 一パ

二十号メンス 一パ

十二月一日 西風 雪

今日は網ゆいをせり

今晚高山教子の処より書来たりて書を書く

十二月二日 西風 雪

今日も網ゆいをせり

夜網をからんで中西さんと運賃の勘定をせり

差引き十二円四拾三錢払ふ

十二月三日 西風 雪

今日は前日より少しく良いと思つて浜で仕事をすたが又雪が降つて全部よごしてすまった

足ゆいをすて玉附けをす

網をはかいた(羽交う)

舟もおよそ出来上がる

今日宮部より帆一枚と口二枚借用す

十二月四日 西風 雪

今日は一日舟の仕度をせり

後網を舟にたいた

今晚鱈の運賃定めをせり 冬至までは

一本二銭冬至後は一銭五厘に定めた

学校の湯に入ってもどつて来たたら佐井の若山友

衛君が僕を訪ねて来て帰ったそうだ

網たきをせり

注。船にたいた・網たき 船に積載する網資材を網入れの段取り良く積み上げること

十二月五日 北風 寒 時々雪

今日は舟を造りて後まきど（巻胴）をすい（据

え）附けた

後舟にペンキをぬつて村のいも割けをせり

今晚は若山さんが遊びに来る

凧ぎない事凧ぎない事 閉口だ

十二月六日 北風 寒

今日は北風が吹いて居るが大がんびりで出掛ける

沖網のかたを見 岡網に行つて見るとなんだかへんだつたので立ちなをくつて行つて見ると口引きのたまがこわれていかりちなは切られいかりは無い

きつと上磯の舟にそうい無い

其より沖網に来たりて今日一ど（統）附ける

〇〇もそうとうにいたぢら（イタズラ）をされた  
様だ

網入

沖網一ど附ける

明日も又ひどい

注。立ぢな 垣網端につけている浮玉付ロープ

口引き 胴網口部につけた網揚用ロープ

沖網 漁場の沖、中、岡と網を建てた 年によつて回遊して来る魚道が違つたためずらして建込むのである しかし、多くの場合湾口部の中央部から下北寄りの岡が主魚道となり、反対の津軽寄りには滅多にない この年は例年通り下北寄りであつた

十二月七日 北風 寒

今朝も北風で有つたが中網のいかりを直しに出掛けた

津軽の舟にあつて話をすて我等が少し内に入れて舟と立玉をならべて岡いかりを使ったが沖があまりにせまく大変に細くなつた

日暮れまでによつたよう網を入れ終り夜六時当地着せり

何だか中網が心配だ

今日昨日つぶしたたるを今日幸丸で青森まで送

った

中網一ど附ける

注。立玉 網揚用と標識用の浮玉 一ヶ統に三ヶ所（口部、両垣網端）

たる 網建て込み、網切り上げ、網に異常があつた際等に用いる大きな浮き用の樽（ドラム缶程の大きさである 牛滝には桶屋がなかつた）

十二月八日 南風 後西風

今朝も又出掛けた

沖網の下手の津軽舟が来て我等に四五拾間も内に入れて呉れいとたのまれたがどうにもならないので返事をすないで来たら後で大変におこつて居った様だ

ぬ  
沖網でタラ九拾式本取つた 岡網は一本ものら

今日はちつと岡の網が大漁すた

今日の漁

大鯿 一枚

小カレ 少々

注。ちつと うんと、ずうつと

十二月九日 曇 西風

今朝幸丸が来たりて引いて網場まで行く

今日は沖網をおこしと千ぐらいのつて居つた



網をおこして見たらぼっちのいかりが引けて居  
つて発動機舟にいかりを使ってもらって直した

帰宅して網袋を造る

今晚は網おろし祝いをせり

注。ぼっち 胴網奥部（建揚げ）

十二月十日 曇 西南風

今朝発動機が二そうとも来たが風が吹いて居る  
ので沖へ行かれぬ 二そうとも上げてすもう（し  
まう）

今晚は早ねをする

十二月十一日 曇後雪 北西風 寒

今日はちな打つをする積りで有ったが皆に場所  
を取られて打つ事が出来得ない

今晚夜学に行つて来る

今日かまとぎをせり

注。かまとぎ 小女子等を煮る時使う釜磨き（？）

十二月十三日 曇 西南風

今日は前日より凧ぎなので沖へ出た 途中幸丸  
がこししょうが生ずたので焼山までこぐ

今日沖網で三百八拾本ばかり岡網で三百二十本  
ばかり取った

今日野田の組合より掛合をされて内に入（れ）

る事にきめたが風が吹くようやめた

今晚健太郎の処で酒をの（ん）だ

十二月十四日 曇 北西風

今日は引渡が有ったので荒川まで行って来る

今日学校の湯に入ってから後発表会をやり後官舎に行つて来る

十二月十五日 曇 西風

今日は朝雪が降って居たので大工を掛けるのをやめた

今晚は何にもせぬ

十二月十六日 晴 北西風

今日は凧たので沖へ出掛けたり

網をおこして見ると思った様な漁もなかった

上磯の舟が沖網にて大々漁をせり

今日は皆良い漁はなかった

今晚学校の人達が遊びに来る

組合で網下（卸）祝いをせり

十二月十七日 晴 南風弱

今朝網場に行きて半分まで上げた時にはもう野田の舟が来て何かにと云つて来たが取り合わずに居ったがまき上げるころ水をまいて来た

おこして袋をちけてあまりに野田の舟がものを云ふのがひどいのでたらを積ませてより網直しをすたが途中にてのぼり潮が来て大変に閉口すたが<sup>〇〇</sup>と中西が手伝つて呉れたので助かった

舟が大変におこつてすまつたが致方がない

中々腹黒い人達だ

注。水をまいて 網が海面に捲き揚がる頃、鱧が一斉に海底に向かつて尾鰭を逆立てて水面近くで動かすことによつて出来る渦巻き 一網千本以上の大漁では見事な渦巻きが出来るといふ

十二月十八日 雨 西風

今日は一日遊ぶ

十二月十九日 西風 寒

今日は青年団のぽんぷに小屋掛けをせり

十二月二十日 晴 北風

今日は大分なぎたが未だ沖へは出られぬ

今日は鮫網をしいた

十二月二十一日 晴 西風弱

今日は凧ぎたので皆舟出をすた

今日は風は無かったが潮がとても早くて皆網をおこせないで居つた

我等は大ふんばりにて岡網をまき上げた

七八尋底から真白になって鳴りがついてうき上がって来た 大変に水をまいた

立上がやぶれたり底をさいたりして大変に苦を見た

後天栄丸にて青森に行く

其の後にて沖網をおこして平館の舟に千五拾本積ませた

今日は三千余本取りたり

注。鳴りがついて浮き上がる 潮の様子が良く大漁の時、網が

勢いよく浮き上がる様 網が水面に出る時の音（浅場の建

網で特に目立つ）

十二月二十二日 晴 西風

今朝早く青森より帰り又すぐ出かけたり

舟のちなにかゝりたるいかりを上げて沖網のいかりをおこしたので大変にこまつたが⑧に手伝ってもらつて直した

後⑧に手伝う

十二月二十三日 雨 後北風 後北西風

今日は発動機が二そうとも来れり

舟を上げたりまた子鱈をかけたりにして後昼後⑧が来ぬのに北風が吹いて来たのでむかへに行つたら何だ発動機に引かれて来て居るではないか

今晚あわび小一円三十五銭にまけて明晩までに  
勘定しる様にきめる

注。子鱈を掛ける 自家用或は土産用の卵巢の発達した雌鱈を  
交通の便が悪いので一時的に外の竿にぶら下げて保存する  
こと

十二月二十四日 西風 雪

今日は父は山へ行く

我等は袋を作った後木わりをせり

今晚あわびの勘定で一円四拾銭下りをせり

注。下りとは仕込み親方に対して赤字のこと 反対は取前（と  
りまえ）といった

十二月二十五日 北風 雪

今朝幸丸引かれて網おこしに出掛けた

途中雪だ

行つて見ると網の具合が悪くて魚も何にもものつ  
て居ると思われぬ

水もまかないす其れでも六百ばかりのつて居つ  
た

岡網でも六百ばかり取った

爺は大変に取った

今晚一ぱいのんだ

十二月二十六日

今朝神詣をすて後喜栄丸にて佐井に注文の子タ  
ラを積んで行つて来る

見土物（土産物）をあずかつて閉口する  
今晚午後七時帰港せり

十二月二十七日 南風 雪

今朝鮫網のえ（餌）を入れて後喜栄丸に引かれ  
て網場へ行く

潮が早くて網をおこされずに岡へ行つて休む  
昼頃出ておこしたるに岡網にて百本ばかり  
沖網は具合が悪くて其れを直して帰る

十二月二十九日 晴

今日も喜栄丸に引かれて網場へ行く  
上り潮が早くて閉口すた

網をおこしたらタラニど（ケ統）で三百ばかり  
取つた

家へ帰りて喜栄丸は長後に行つて青森に行く

十二月三十日曇

今日は午前木せおい（背負い）をすて午後木わ  
りをせり

今晚未鯛（真鯛）を上納した

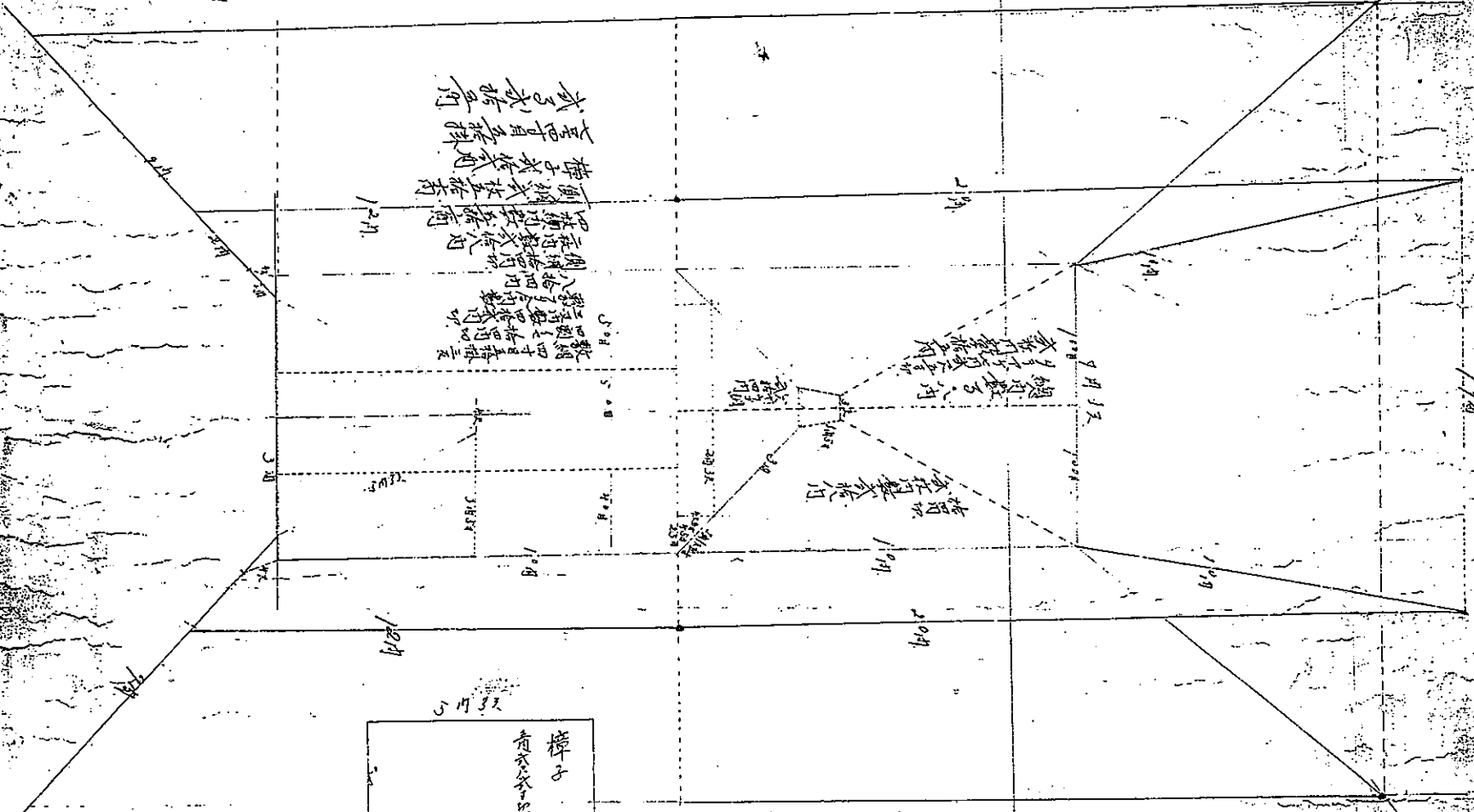
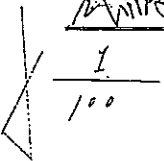
十二月三十一日 晴 凧

今日は網へ行つたがさっぱり鱈が無い

今日は⊖で加藤鮫一本取った

今日幸福丸が青森に行く

# 定規線圖



1920年  
...

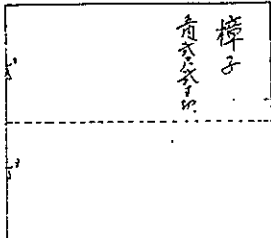
或子或拾畝  
至田身各樣  
樺子或拾畝  
面網或拾畝

四在河邊  
...

...

...

120ft



...

...

...



表一。本日記にみられる牛滝におけるタラ漁獲尾数記録（昭和九年一月から十二月末）。 日記者の屋号は 舎。

屋号	舎	⊕	⊗	⊙	⊖	⊚	ㄣ	ㄤ	ㄨ	ㄩ	ㄷ	ㄸ	ㄹ	ㄺ	ㄻ	ㄼ	ㄽ	ㄾ	ㄿ	計
一月四日	250		1,000				900							1,500			1,000			4,650
一月七日	60																			60
一月十六日	71																			71
一月二十三日	56																			56
十二月七日									303					30						333
十二月八日	92	400	130	100	500		130		130					400			400			2,282
十二月九日	912	600	500				500							900			1,300			4,712
十二月十三日	700	200	500	100	600	14	600		200	100				700	17				70	3,801
十二月十六日	526	500	400	7	50	5	500		50					500	17					2,555
十二月十七日	650		200						40					400			30			1,320
十二月二十一日	3,300	800	2,500	300	1,000	1,000	3,200						300		50		2,000	80		14,530
十二月二十二日	550	14	10	10	60	1	400		50	6	50	7		30			30	3		1,191
十二月二十五日	1,200	300	1,400		400	20	1,500						2,000				1,000			7,820
十二月二十七日	100	100	14	60	50		300		50					300	30		100			1,104
十二月二十九日	300	100	380	60	50	20	250		50	60				350	27		170	70		1,887
十二月三十一日	100	70	150	30	50		150		50					150			30			780
総計	8,867	3,084	7,184	667	2,760	1,060	7,570	900	883	466	7,280	148		6,060	223					47,152

坂井清一日記について

坂井清 一

日記著者は大正三年三月十三日牛滝生まれ。本日記を記録したのは満十九才から二十才にかけての青年であった。

昭和十年六月十日午後十時三十五分 急性盲腸炎のため青森県立病院にて死亡 享年二十二歳

父坂井源八、母りそとの間の長男

弟 弘

屋号 舎(山吉)

日記に見られる当時の船、同業者、交遊関係等について、地元の野村義勝氏等の協力を得て判明した部分について解説しておく。

尚、原文に忠実に採録したが、判読不能や記入のない部分については□とした。また、方言等理解し難い簡単な部分については編者が括弧書きで補足した。その他は、注として解説を本文中に付した。

日記には鱈漁の各漁家毎の毎日の漁獲尾数が克明に記録してあり本文中には示さなかったが巻末に一括して表とした。

また、昭和九年の世相の一端を日記百年史より再録し巻末に付した。

### 船関係(発動機船)

幸丸(さいわいまる)

牛滝く青森港 牛滝故中西金太郎所有機帆船一故中西金蔵

現中西幸一の父の弟(分家)所有

幸福丸(こうふくまる)

牛滝く青森港 牛滝故高橋久次郎所有一長男故豊次郎へ継承

正吉丸(まさよしまる)

福浦く青森港 故福浦田中寅助所有||現田中志賀吉

第五八幡丸(やはたまる)

青森く大間定期船(株)青森商船||現(株)下北汽船の前身

大安丸

弁立石宇太郎所有(脇野沢村瀬野)

千代丸

青森く函館 木造十五噸 牛滝故船越元治所有||現船越元勝

海洋丸

大佐井故船越孝一郎所有 木造十五噸位

八月十九日付仏ヶ浦に観光客を乗せて行った船は(株)青森商船の所有船?

観音丸・天栄丸・喜栄丸・・・不明

日記には見えないがその他、以下の船もあった(佐井村誌より)

北洋丸

佐井港 加賀富太郎所有

第五日乃出丸

磯谷 東出梅松所有

同業者

濱野市松

①現濱野幸雄の祖父

本郷

海産物委託問屋

杉浦小六・健次郎

△蛸田

中西金太郎

△牛滝 幸丸所有者・金蔵の弟

坪田

⊕脇野沢本村

松本（兄貴）

△長内 青森市舘貝町（現青柳一丁目）海産物委託問屋

坂井

△牛滝 現坂井文雄

高橋

△牛滝 現高橋昭利

立石宇太郎（アヤ）

△脇野沢村瀬野 大安丸所有者 穴間番屋所有者

櫛引留彦

△脇野沢村九艘泊 現櫛引（留吉）理三郎

宮部与三郎

會秋場所を入中に貸し付けた

田中寅助

福浦 正吉丸所有

立石与平

△脇野沢村瀬野 武士泊番屋所有

三圓 三圓印

伊藤嘉助商店 海産物委託問屋（現伊藤嘉勝）

まる米

⊕佐井出身の海産物委託問屋

三ツ輪（組）

⊕当時牛滝の鰯網共同操業組合（数人共同）

柴田・三常……不明

交遊關係

別家の長太郎

△坂井家の分家（故坂井長之助の弟） 現坂井亮一の分家で

健太郎

故坂井健太郎

直太郎

△故濱野直太郎 現濱野幸雄

豊次郎

故高橋豊次郎（幸福丸船主）

久太郎

△故大畑久太郎（病死） 現大畑正義

清一郎

△故竹本清一郎（大平洋戦争戦死） 現竹本保治

勝雄

故成田勝雄？

丸町

立木など木材取扱業者 函館方面の人

若山友衛

現佐井村黒岩在住（小売店経営）

弘

実弟 六歳 現在東京方面在住の様子

久子

不明

豊作

△故山本豊作（支那事变戦死） 現山本長太郎

由一（〓由市）

⊖田中由市（義美氏の父）

順治

△坂井順治

正義

故坂井正義（病死）

勇吉

△長谷川勇吉

三次郎

可 竹内三次郎

金作

故野村金作（後青森市に転出齋藤姓となる）

秀太郎

㊦ 故長谷川秀太郎（病死） 現長谷川福一

清一の母の妹せつと結婚

白井の人達

清一の母りその妹ミワの嫁ぎ先 函館

白井三郎と妻ミワ、息子の良平達 現在息子夫妻は東京在住

鳴海君

鳴海宏静先生の実子

三上医院（剛太郎） 開業医 佐井村 現三上敏（佐井村教育委員）

きく子・省一・高山教子・・・不明

昭和十二年発行の笹澤善八著佐井村誌より関係部分を抜粋しておく。

牛瀧村中

総代人 長谷川 勝三郎

漁師總代 竹本 甚太郎

同 長谷川 勝太郎

火防組合小頭 長谷川 勝太郎

同 長谷川 勝三郎

同 高橋 豊次郎

同 山本 豊作

同 竹内 玉太郎

佐井村漁業協同組合

組合長理事 若山 清之助

理事 若山 繁太郎

同 奥本 貞一郎

監事 石戸 仁太郎

同 加賀 平次郎

同 畠中 要太郎

佐井村青年団

牛瀧分団長 田中 由市

同副分団長 坂井 順治

佐井村処女會

牛瀧分會長 高橋 りせ

同副分會長 山本 みさ

漁場名称等

眼鏡網又は鯉猪口網建場

名称 権利者

三十三郎潤 畝坪田

今滝 畝

ケ又マ △

松原

荒川(宮川) 畝

牛滝潤 會 畝使用

漁場の位置については付図(図一)を参照のこと。

また、夏漁の時小屋がけをして住んだ番屋については図一に示したように管内に八ヶ所あり、さらに、脇野沢外海番屋も借用したようである。図に示した番号の所有者は左記のとおりである。尚、所有者名は必ずしも当時の人ではない。

- ① 坂井文雄、② 山本秀松、③ 田中由市、④ 田中清造、⑤ 長谷川勝之助、⑥ 坂井源八、⑦ 竹本甚太郎、⑧ 大畑留太郎、⑨ 高橋豊次郎、⑩ 坂井文雄

#### 底建網図面について

十月十五日の日記に見られる底網の図を引くとあるが、その図面が現存している。その複製縮小版を付図として示したが、原図は百分の一の縮尺で厚手の和紙に鉛筆描きで引かれたものであり、寸法はもとより、所要の網地の目合、間数、セト足の規格別数量等まで詳細に書き込まれており、現存する底建網の設計図として第一級の資料的価値を有するものと考えられる。

ここに、縮小版では判読不能のこれらの書き込みを再録しておく。

その前に、当時の操業形態について若干付記しておく。

当時、日記にある通り発動機船の出現があつたが、これらは有力者の物資輸送船あるいは、青森市の仲買人の漁獲物運搬船であり、一般の漁船にはまだ発動機を備えるものはない。従つて、網の巻き揚げは専ら人力によるるろくろを廻しての重労働であつた。網の巻き揚げは滑車を利用したガンタ方式であり、一旦網口につけた網引き網を取り込み、これにロープを足すことにより、網揚を容易にしてある。

#### 底網予定図

昭和九年拾月拾五日製作

右中央

三寸目七号百掛 一百間

三寸目六号百掛	五拾間
三寸目八号五拾掛	一百間
六寸目六号五拾掛	二百間
五分径ロツプ	四丸
四分半	三丸
五号メンス (綿糸)	一匁
六号メンス	五百匁
七号メンス	五百匁
セトカケ足	四拾匁
四寸玉	式百箇
ヤンケタマククリ	一匁
トリアエン	式匁一パ
トリアエン	六匁一丸
(注) メンス 綿糸	
セトカケ足 瀬戸物の足	
トリアエン トワインのことか	

左下段

敷網 四寸目五拾掛三反  
 四割イセ 拾四間切  
 三反間數 四拾式間切  
 敷フタ合間數 八拾四間  
 側網拾四間切  
 二枚間數式拾八間  
 四枚總間數五拾六間  
 一側網式枚五拾六間  
 障子式拾式間  
 七号四寸目五拾掛  
 式百式拾五間

中央身網

拾四間切 式枚間數式拾八間  
 總間數百八間  
 タテアゲ七間式尺五寸切  
 式枚間數拾五間  
 ズヤウゴ網式拾四間

右下

障子

五間二尺二寸切

身網寸法

間口七間一尺 奥行き式拾間

障子網奥入口四尺幅

ズヤウゴ網 手前入口幅四尺 奥口幅三尺

手網長 九間

身網高さ 式間式尺五寸

青森県近代史年表 新聞記事に見る青森県日記百年史より  
昭和九年の世相

- 一月二日 弘前で公娼廃止
- 一月十九日 県庁で県出稼者保護組合連合会創立総会
- 二月八日 大阪合同水産株式会社、八戸鮫港埋立地にフィッシュ・ミール工場建設  
日産一万貫
- 二月二十四日 待望の県営電気、条件を付し許可指令四月一日営業開始
- 三月一日 満州国帝政実施執政溥儀皇帝となり康徳と改元
- 三月二十一日 函館大火二二、六〇〇戸焼失死者六五〇名  
県下に青森測候所開設以来の暴風最高風速二七メートル  
死者行方不明者三五名  
鱒ヶ沢漁船遭難折から出漁中のトロール発動機船二十一隻の内五隻が消息不明となり百余名の町民は海辺に立って不安な一夜を明かした  
この遭難による死者、行方不明者二十四名  
県、大湊電燈買収の仮契約に調印
- 三月二十七日 下北郡脇野沢村の下町大火 一七〇戸焼失殆ど全滅
- 四月十八日 下北郡大畑町 町制施行
- 五月一日 八戸物産館開館
- 五月二日 青森市合浦公園で青森連隊区管内満州事変戦没者慰霊祭  
参会者二、〇〇〇余名
- 五月九日 八戸港第二種港に編入決定
- 七月三日 大畑漁港竣工
- 七月十八日 県水産試験場 魁丸で瑞典(スエーデン)製ハスバーナ(鮭漁獲銃)の試験
- 八月二日 十和田湖へバス開通
- 八月四日 県水産試験場東奥丸で水中集魚燈による柔魚漁試験実施
- 八月二十一日 津軽方面に豪雨河川氾濫、家屋浸水、水田冠水
- 九月二十日 大正二年以来の凶作(県統計課発表) 予想収穫高六十四万石
- 九月二十一日 室戸台風、関西で大被害  
県内八戸地方で田畑・建物・船舶など大損害  
県産りんご五十万箱落果
- 九月二十五日 大湊要港部を中心に防空演習
- 九月二十六日 県観光協会設立
- 九月二十七日 県産りんご初の海外輸出香港、シンガポールへ



十月二日 東北六県知事連合協議会で、東北地方災害と地方振興のための根本対策樹立を政府に陳情

十月十七日 県下欠食児童一万六〇〇名

十月二十一日 初のりんご列車運行

十月二十三日 種里海岸県の名勝に指定

十一月四日 県人口九十六万人 第四回国勢調査結果（県統計課）

十一月十二日 臨時県下凶作対策警察署長会議で禁節酒申し合わせ

十一月二十日 県水産会の遠洋漁業指導船青森丸進水

十二月一日 八戸市、凶作対策委員会を設置

十二月四日 八戸沖ではたはた漁獲、県水産試験場は鮫角の海況調査

十二月八日 深浦港二期工事完成

十二月十三日 五能線轟木・追良瀬・深浦の三駅開業

十二月二十二日

凶作罹災者に皇后陛下から衣類下賜

十二月二十五～二十九日

八戸無産者診療所凶作対策として無料診療

十二月 青森営林局 局内に農山村経済更生審議会を設置

この年

・東北冷害・西日本干害・関西風水害で水稻大凶作

・本県の身売婦女 五、一二五名

・本県の凶作に寄せられた義捐金四一六、四五五円余

・赤城の子守歌・国境の町・鹿兒島小原節 流行

・百年前の野辺地湊の巻絵図発見

あとがき

編者がこの日記に出会ったのは確か平成四年十二月二十日の牛滝鱒網部会の合同網卸祝賀会に招かれた際、坂井家に立ち寄って現物と鱒網予定図面を借用したものである。小型の市販されていた当用日記に書かれたものであった。

借用してから、我が家で暇を見つけてワープロに入力したが、判読の困難な部分、意味のわからない部分、登場人物、屋号、漁業資材、作業内容等の不明な部分が多く、当時牛滝支所長をしていた野村義勝氏には献身的なご協力を頂き解明を進めてきた。

平成十年には大体のところを完成させたが、そのまま現在まで放置してきたのが正直なところである。しかし、平成十四年正月を迎えて、これまでの怠慢を恥じ、急ぎ完成させるべく努力した。

日記に見られるように清一氏は度々腹痛を訴えておりこの頃から慢性的な虫垂炎を患っていたもので、現在では何とということもない虫垂炎で弱冠二十一歳の若さで逝去した。当時の、医療の貧困に強い憤りを感じるものである。

しかし、現在とは隔世の感のあるこの時代を一所懸命に生きてきた様子が生き生きと描かれており、読む者をして感動させずにはおかない。

若干の部数を複製した。

関心のある方のご参考になれば幸いである。

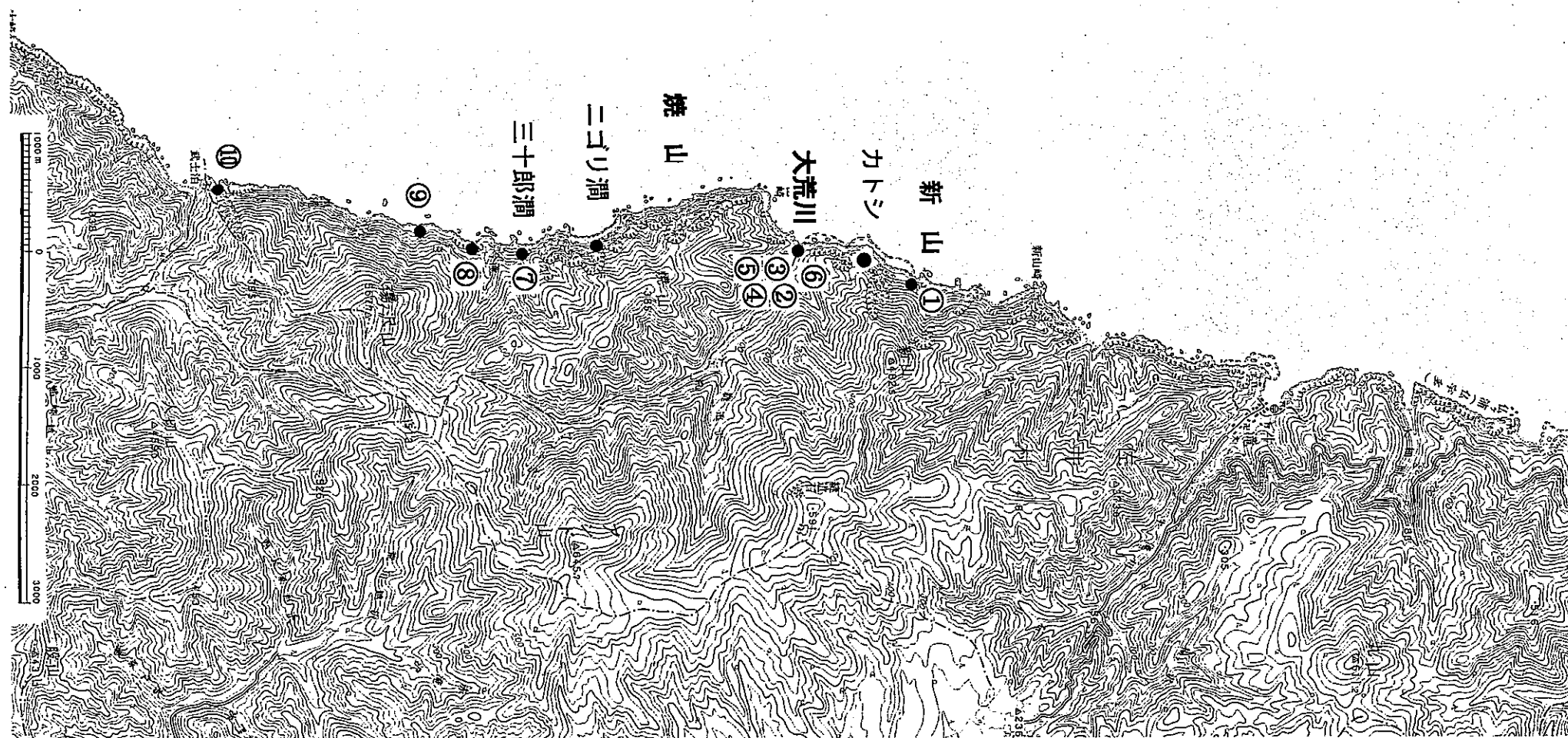
編者の思わぬ誤りや、不明とした部分の情報をお持ちの方からのご指摘、ご教示を願うばかりである。

終わりに、お世話になった野村義勝前支所長には衷心より感謝の意を表す。

青森県水産増殖センター

塩垣 優

平成十四年二月八日



図一。 牛滝管内における溜及び夏漁番屋 (①-⑩) の位置図。